

第8回山ノ内町立小学校統合準備委員会 議事要旨

(開催日時・場所・出席者)

日時 令和6年3月8日(金) 午後6時30分～8時40分

場所 山ノ内町文化センター3階ホール

出席者 (委員)

・出席委員 17名

委員長 原 隆文 (小学校長経験者)

副委員長 中山 洋一 (町子ども会育成会連絡協議会)

湯本 将平 (南小学校PTA会長)

中島 学 (西小学校PTA会長代理)

佐藤 匡則 (山ノ内中学校PTA会長)

小林 隆一 (志賀高原保育園保護者会長)

青木 沙記 (かえで保育園保護者会長)

下田 晶子 (すがかわ保育園保護者会長)

湯本 文洋 (東小学校長)

齋藤 義和 (西小学校長)

山口 近 (山ノ内中学校長)

春日 雅之 (区長会会長・佐野区長)

湯本 弥助 (区長会副会長・杳野機長)

坂口 弘 (区長会副会長・横倉区長)

吉池 茂敏 (区長会副会長・須賀川区長)

小河原 康貴 (コミュニティースクールコーディネーター)

佐藤 重子 (主任児童委員)

(教育委員会)

山ノ内町教育長 竹内 延彦

山ノ内町教育委員会事務局 教育次長 田中 浩幸

山ノ内町教育委員会事務局 学校教育係長 坂口 俊明

山ノ内町教育委員会事務局 教育指導主事 小林 妙子

山ノ内町教育委員会事務局 学校教育係 畔上 俊樹

山ノ内町教育委員会事務局 学校教育係 宮崎 瑛

欠席者 (委員)

阿部 次朗 (ほなみ保育園保護者会長)

畔上 莞奈 (よませ保育園保護者会長)

中村 まゆみ (南小学校長)

傍聴者 20名

1 開会 (教育次長)

2 あいさつ

(原隆文委員長)

今年度の統合準備委員会としての会議は3回目となる。

まず、前回10月13日会議の内容をまとめて述べさせていただく。

前回会議では、統合小学校のあり方や当委員会が策定した統合小学校整備計画などについてや各地域で開催された住民懇談会での住民の皆様の意見のまとめについて教育委員会事務局から報告があった。

統合のあり方については、住民の意見として統合小学校の敷地についても多様な意見があった。過去に実施したお子さんがいる家庭の保護者アンケートの結果として、統合賛成が78%、中学校敷地案の賛成が65%など具体的な数字の発表もあった。その他教育委員会には多様な項目について意見が寄せられているとのこと。

今後、統合準備委員会内で専門部会などが開かれていくが、部会で多様な意見をしっかり聞いていく必要がある。

統合小学校整備計画について平澤町長からは、敷地が狭い、他の地域から人が訪れたいくなるような魅力が足りない、一旦既存の小学校に統合後、新校舎を建設してはどうか等の意見があり、準備委員会の中学校敷地とする既存案から大幅な転換を求められた。

その点について、前回委員の皆様からは当委員会が策定した山ノ内中学校敷地に統合小学校を新設するという案を基本とした統合小学校整備計画案の内容について、小中連携の良さを始めとした大きな魅力があると意見をいただいた。

教育委員会としてこれらの意見や平澤町長の考えを踏まえて、改めて協議して意見をまとめていただくことをお願いして会議を閉じた。

今回の委員会は前回から間隔をあけて開催される。なぜこの時期まで当委員会が開かれなかったのか、また前回の意見はその後教育委員会でどのように扱われ、どうなったのか、平澤町長は我々の意見をどう受け止めたのかという疑問があるだろう。

さらにこの2月末から3月にかけて信濃毎日新聞や北信ローカルなどの記事には、平澤町長の意向として山ノ内中学校敷地を活用する方向から既存の小学校を活用する方向へ転換する旨の内容が示された。

中学校併設の案で進めてきた当委員会にとっては、何の説明もなく、どのような経緯でそのような方向になったのか、疑問に思われる委員方もいると思う。

本日の会議はこれらの疑問に答える場とすることを目的に開催された。これまでの経緯やその間の教育委員会と町とでどのような議論が行われたのかについて発表がある。委員の皆様にはしっかりと確認していただきたいし、悔いのないようにご自分の考えをしっかりと述べていただき、任期の終わる方は後任の方へ本日の内容をしっかりと引き継いでいただきたい。

皆様の考えを聞いて、それらをまとめて、教育委員会と平澤町長へ当委員会の答申とした。よろしくお願いいたします。

(竹内延彦教育長)

委員長から、これまでの経緯を振り返っていただいた。まずは前回10月から5ヶ月の間、この委員会を開催することができない状況にあったことについて教育委員会としてお詫びを申し上げたい。この間の経緯詳細を説明させていただきたい。

教育委員会としては、小学校統合準備委員会の会議は大事なものとする。本来であればスムーズに従来からの方向性に従って中学校敷地への統合で、その具体的な中身をご協議いただくための会議として設置している。

統合の中身に関して、具体的な学校づくりの、未来に向けてワクワクするような議論をしていただきたかったが、この1年間できなかったことを本当に申し訳なく思っている。

今年度末までに統合の方向性をしっかりと結論を出したいと町長も言っている。教育委員会としても今年度中にしっかりと方向性を定めるとして努力してきた。

つきましては基本的にはなんとか年度末には教育委員会としての姿勢を示したいと思う。

これまでの経過・詳細、また、教育委員会がどのような議論を町長とも交わしてきたのかを皆様と共有したい。その上で準備委員会の皆様の忌憚ない意見をいただき、それを教育委員会としてしっかりと受け止めて、統合に向けてさらに力強く前進したいと思っている。

本日の会議は、今後の統合の方向性を定める上でとても大事な場になると思っている。年度末で任期もわずかという委員も多い中で恐縮であるが、ご意見をお願いしたい。

3 委員紹介 (教育次長)

次第の裏面に当委員会の名簿を添付。改めてご確認をいただきたい。

(本日の欠席委員を報告)

4 会議事項

(議長 原委員長)

(1) R5年度の議論の経緯と統合に向けた進捗について

(教育長説明)

<配布資料1>

まず令和5年度のこれまで教育委員会がどのような協議・作業をしてきたか、合わせて町長とどのようなやり取りをしてきたかを時系列に資料にまとめた。

(配布資料1 1ページ)

令和4年度3月に『町立小学校適正規模及び適正配置にかかる基本方針』を策定した。

これは町としても総合教育会議で承認を受け議会にも説明済。これが出発点。

その中で小中連携教育の推進を前提に3つの小学校を1校統合することが確認されている。

統合場所については、いろいろな小学校の議論がされ、策定直前には東小学校か中学校かという議論から、さらに進んで山ノ内中学校敷地に小学校を併設することが令和4年3月時点で町及び教育委員会として合意した内容。

1年経過し小学校統合準備委員会が組織され、令和4年度（令和5年）3月9日に『統合小学校整備計画（案）』が教育委員会へ答申された。

改めて、中学敷地に統合小学校新設で併設をする、小中一貫教育・義務教育学校についても計画の中で触れられ、引き続き検討していくことも議論された。令和5年2月、平澤町長が当選し、統合小学校を中学校に併設することに一旦立ち止まって再検討することを表明。選挙の公約でもあり、それを受けて議会では関連予算を削除したもので承認を受けたのが昨年、令和5年3月時点での状況である。

5年度に入り、4月に教育委員会の体制も変わり教育委員会としては基本的に『統合小学校整備計画（案）』の内容に基づき議論をスタートすることで進めてきた。

それに対して、委員長の挨拶でもあったように、町長は施政方針をいろいろなところで発信されていた。役場・町内、町外、役場の外に対しても一貫し「教育の魅力化」でしっかり町づくりをし、山ノ内町を経済的にも豊かにしていくということが町長の公約であるということ。

小学校統合についてもその魅力ある教育環境と教育内容とその両面からの魅力を重視して進めてほしいと度々教育委員会に要請をされた。

5年7月に第6回目の小学校統合準備委員会が開催され、改めて小学校併設について、教育委員会としても少し視野を広げながら既存小学校を活用するということの統合案も含めて経緯を会で報告した。

（配布資料1 2ページ）

5年9月までの間に町内の各地区の役員、保護者、住民の皆様からのご意見を直接伺うため24回説明会・懇談会を開催した。

9月3日に平澤町長が自ら懇談会の場で「中学校敷地への統合小学校併設は自分としては魅力的だと思わない。」という発言を新聞でご覧になったかと思う。

9月以降は基本的には町長が言っていることは大きくは変わらない。

その背景として9月3日に非公開で教育委員全員と町長が町長自身の考えとして町長が目ざす町づくりの考えを教育委員に示し、直接話をしたところにある。

内容は資料のような中身で、小学校統合に関しては東部よりも西部地区が望ましいとする町長自身の考えをここで初めて教育委員にも直接示した。

この時点では町長としてはできるだけ町外から注目される立派な学校を作ろうということで、のびのびと子どもたちに広い敷地を購入して、新築で小中一貫の平屋木造の目を引く学校を作ってもいいのではないかと、大変積極的な話があった。

その後、総合教育会議が9月27日に公開で行われ、ここでも基本的に町長は同じ考えでより具体的に、ポイントは大きな予算をかけるのでその経済的合理性を、町長の言葉を借りれば「投資をする価値のある統合の計画をしっかりと作ってほしい。」と。

例えば 30 億かけるのであれば 30 億をかけるだけの魅力がある教育環境・教育の内容両面からの魅力をしっかり客観的に示せるプランを教育委員会としてまとめて欲しいという要望・指示を再三受けてきた。

町長自身の考え方とすれば、中学校敷地はどうしても狭い、これだけ土地のある山ノ内町でありながら、どうして狭い中学校の敷地に小学校を持ってかなければいけないのかがどうしても引っかかり、そこが大きなデメリットと感じていたというところ。

中学校敷地に数十億もの予算をかけるよ、もできるだけ費用対効果の高い価値のある投資をする。それだけの内容・プランを示して欲しいと 9 月の総合教育会議でも話をされた。

この総合教育会議では、教育委員に話をした町づくりビジョンまでは触れることはなかったので、教育委員会としては少し消化不良な部分があったかと思う。

(配布資料 1 3 ページ)

10 月 13 日の第 7 回小学校統合準備委員会の時点で、まだ町長は小学校統合は進めるべきだとはっきり言っていた。かつ中学校についても町長が納得するような魅力あるプランを示してもらえれば、必ずしも反対ではないという姿勢だった。

10 月、11 月も町長とやり取りをしてきた。11 月に入り現場の校長先生方とも具体的な中身について協議をしてきた。

基本的に教育委員会は、現場の先生方とは常に情報共有をしながら意見を尊重しながらこれまでも中学校併設いうことを基本にしたプランを練ってきた。

12 月 7 日に、それまで教育委員会として現場の先生方やいろいろの方々の意見を踏まえて中学校併設の魅力を感じてもらえるようなプランを町長にプレゼンした。

<配布資料 2 >

教育委員会の中学校併設プランの詳細。このスライドを持って町長に示した。

中学校併設であっても狭いというところを十分にカバーするだけの魅力がある。

小中連携という、今まで現場の先生方も地域の方々も極めて高い価値として認めてきたところを軸としたプランを作った。

数字は、どれだけのコストがかかるのか、限られた土地の中でもどれだけ子どもたちにとって面積を広げられるデザインが可能かを専門の事業者の方と一緒に資料作成したもの。

この資料では、町長は基本的に中学校併設という根本的な部分がどうしても認めづらいとのことで、中学校併設プランは認められない、受け入れられないという評価だった。

(配布資料 1 4 ページ)

12 月議会が始まり町長からいくつかポイントとして宿題を出された。

4 ページの上から 2 段目にあるとおり。

必ず複数のプランを用意してほしい。費用対効果の視点をしっかり盛り込んで欲しい。中学校敷地の場合には、一人あたりの面積は小学校のみで 25 m²以上となるように、グラウンド等も十分の広さを確保する。総工費は 30 億を超えない。小学校の統合を最優先に議論を進める。

教育委員会としては中学校併設をずっと一番のプランとして議論を進めてきているが、それだけでなく（既存）小学校を活用した小学校のみの統合というプランも合わせて、同じレベルの資料を作成して改めてプレゼンしてほしいという指示を町長から出された。

12月議会の段階で本来は教育委員会として具体的なレイアウトやコストの数字などを示したいと思っていたが、なかなか町長と協議がまとまらなかった。

12月に議会へは、結果的に現在、複数の案について検討資料を作成中で、年度末までにしっかり示したいという説明のみをした状況。

令和6年に入り、1月以降引き続き教育委員会として中学校併設のプランと小学校を活用したプランとして複数案のブラッシュアップを重ねてきた。

（配布資料1 5ページ）

1月も終わり、2月7日に改めて町長に複数のプランの資料を提示しつつ説明した。

<配布資料3>

1枚目は、このプランAからプランEまで横に並べ、それぞれの広さやどのような建築の形状か。裏面はコストの数字が並んでいる。

プランAからプランEまで条件の中でこれだけコストが想定されると。

もちろんあくまでも概算として、上下いくらかでも動く部分はあるが、基本的なこれまでの事例、統合された小中学校の事例から業者に算出してもらった概算。比較資料としてはそれぞれの違いがある程度分かるような資料になっている。

それと合わせて、補足資料3というものを見ていただきたい。

これは中学校を中心としたもの。プランB・C・Dは西小学校を中心としたもので作成し、それぞれレイアウトのサンプルである。

具体的にこのような資料を作り込み、敷地を拡張した場合とか拡張しない場合、コスト面、そして町長が一番重視されていた子ども一人あたり面積など、比較資料を示しながらプレゼンを2月7日にさせてもらった。

（配布資料1 5ページ）

その中で町長としては、この教育委員会の欄にある2月7日「町長の真意を再確認」と書いてある。

（配布資料1 6ページ欄外）

やはり町長としては、コスト的には費用対効果的なものと、周辺にゆったりとした土地があることや、電車の駅が近いこと、アクセスのことや、トータルに考えて町づくりという観点から西小学校を拠点に統合を進めるというのが望ましいという考えだと我々としてもよりはっきり確認した。

昨年4月からずっと言っていたことだが、とにかく山ノ内町を経済的にも豊かな、人口が増える町にしたいというビジョンの中で、教育においても移住を呼び込める、それによって少子

化が改善され人口が増えたり、そのための学校統合を一番に最優先で考えて欲しいとはっきりと聞いてきた。

(配布資料1 5ページ)

配布資料3で複数プランを示したというところまで説明したが、5ページの町長の欄の2月8日で町長が大きく方針転換を示した。

統合小学校の数字をしっかりと出せば出すほど、思った以上にコストがかかる。

当初30億という数字は、まだコロナ前で20億とか30億というような試算が出されていた数字がそのまま残っていた。コロナや世界の様々な状況で最近の物価上昇等により建設にかかるコストは1.5倍から2倍に跳ね上がっているのは一般的な状況。

そういう中、例えば中学校に併設も数年前は30億という数字が出ていたが、1.5倍で45億、2倍で60億というのは、別に立派なものを作る・設計するからということではなく、世の中全体の物価上昇の中で、今回改めて数字を出すと46億という数字が出てきた。

さらに町長が当初言っていた本当に広い土地に小中一貫で新築木造平屋という校舎を、夢のような学校を作ることを算出した場合には、100億近くかかる可能性があるという数字まで出る。町長としても、やはり冷静に考えたと思うが、ここに書いてあるとおり統合小学校についてはハードにお金をかけずにソフト事業にしっかりと予算を割り当てていきたい、投資をしていきたい、と大きく町長の中で方針を転換する、と意思を示した。それに基づいて、私の方で町長の考えを聞きながらハードからソフトへという方針転換のための資料作成を始めた。それが配布資料1 5ページ目の下の方と配布資料4になる。

<配布資料4>

皆様も新聞紙上で概要はご存知かと思う。今日も資料に新聞のコピーをつけた。

この配布資料4は、令和6年2月27日議会全員協議会で議会の皆様に向けて説明された。

とにかくハードからソフトで、ハードにお金をかけるよりも今いる子どもたちのことも考えれば、まさにソフト事業、例えばALTの増員や留学支援や一部令和6年度に予算化しているが、もっとソフト事業に、人材確保などにしっかりとお金をかけるという方向性。逆に言えば小学校の統合はできるだけコストを抑えたプランを、と町長として示したということ。

それを町長自身がメディアにも説明されて、配布資料5のように2社に2月末と3月1日に記事が掲載された。

(配布資料1 ページ6)

町長の大きな方針転換を受け、教育委員会としてこれからどうしようというところが今日の時点である。

教育委員会として基本的には、今までの長年にわたって多くの町民の皆様の思いを受けての整備計画であるし、中学校敷地への小学校併設というプランを教育委員会として自ら取り下げることがやはりできないということを教育委員の皆様と話をしているところ。

教育委員は各地区の代表として委員を勤めているし、教育委員会としては各地区を回り、直接の話を聞いたことも踏まえて、基本的には町民の皆様、特に子ども、保護者や現場の先生方の意見を最大限尊重することを一番に考えて、今までも協議を進め作業もしてきた。

教育委員会の基本的な姿勢は変わらないということをまずはお伝えしたい。

町長は町長でしっかり町の全体を考えてビジョンを示した。教育委員会に対してもその考えをしっかりと示している。

最終的に、今日も説明したとおり統合には大きな予算がかかるが、その予算権という権限は町長にある。教育委員会には予算権がないので、教育委員会が中学校にどうしても作りたいと思っても、町長が納得していただかない限りは予算がつかない。実現しないということにもなりかねない。

教育委員会としては、今後もしできる限り町長としっかり協議を進めながら何とか着地点を見出していきたい。

ただ教育委員会の姿勢としては、町民の皆様の総意を受けて今後も議論を進め、また何よりも今いる子どもたち、そして現場の先生方が望む、子どもたちのための学校づくりということを最重視しながら、自分たちの方向性を見失わないようにしていきたいと思っている。

今日、第8回統合準備委員会を経て、今後、総合教育会議も予定されているので、なんとか3月末までに改めて町民の皆さんに今後の方針をしっかりと示していけるように進めていければと思っている。

これについて本日の統合準備委員会で委員の皆様からも教育委員会の考え方、また町長が示した方針に対して是非ご意見をいただきたい。

(委員長)

今年度のこれまでの議論の経緯と統合に向けた進捗について説明があった。

ここで委員の皆様から質疑を受けたいと思う。質問意見等あったらお願いしたい。

(委員)

教育委員会の皆さんの24回の各地区の懇談会での丁寧な受け答えに頭が下がった。また町長の宿題に答える何回ものプレゼン、本当にご苦労様でした。

今聞くと、私たちが準備委員会で今まで積み重ねてきた協議の時間はどんな意味があったのかと思う。

ただ、やはりお金のかかることである。私も保護者の皆さんに少し話を聞いたが、大きな金額(借金)を今の子どもたちに残していくのはどうなんだろうという話や、もう場所はどこでもいいのではないかと。子どもたちが一つの場所集って、勉強そして遊びができるのであれば、どこでもいいのではないかとっている保護者の方もいた。それが南部でも東部でも西部でもない。

今までの時間の積み重ねに対して、もうちょっと私たち委員も中学校敷地に固執するのではなくて、子どもたちに何を残してあげられるかを考えてもいいのではないかと思う。私たちには情報は新聞とかからしか来なかったが、その新聞を読んで今思うことです。

(委員長)

中学校の敷地に固執するのではなく、もう一度考え直してみてもいいのではないかということ。

(委員)

準備委員会でいろいろ過去に検討されてきた内容、非常にいい内容だが、町長の考えがいろいろ変わる。最初は魅力がない、次に面積が狭い、今度は予算がかかりすぎる。そのたびに意見が違っている。これが非常に不満に思う。

金をかけずに西小にしたかったならば、当初から言えばいいと思う。(教育委員会に対して)説明会開きなさいと言えば1年間無駄なことをしなくて済む。非常に町長の考えが甘い。

移住をしたくなる(学校)、そんなことはありえない。今の子どもたちのためにどういう学校を早急に整備するかとの議論をしないと間違った方向に行く。政治介入のようにどうしても受けざるを得ない。

配布資料の6ページのところ。初めて聞いたが、西部エリアに町営住宅の開発をしたいと。このために西小学校なのかという変な捉え方をされる場合もある。

今まで10年以上議論してやっと位置が決まったのに、ある方は2校などという意見もある。私は須賀川出身なので、北部でいいじゃないか。大自然も広い土地もいっぱいある。だけどそれは賛成を得られないと思う。この3月に拙速に方向を出すことが非常に危ないと思う。多分町長は教育委員会が決めた内容でしょと思うと思う。

だから3月に結論を出す前に、もうちょっと住民が納得するような説明会を、町長自らが出向いてやるべきと思うし、その辺を考慮して教育委員会で決めていただけたらと思う。

(委員長)

町長の意見が変わってきていることに関してやこのままでは年度末までに結論が出ないのではないかという見通しを含めてお話をいただいた。

前回、委員から小中の子どもたちが触れ合うことの魅力とか、それに賛同して小中の子どもたちが一緒になって勉強することが、非常に魅力があることを前回委員の皆様からいろいろ意見をいただいた。それが我々の統合準備委員会の整備計画案の魅力である。ただ、その魅力は平澤町長には全く魅力として価値がないと言われてしまった。

(委員)

昨年一年間、4年度までに整備計画案を出して中学へ統一となったのかなと思う。

平澤町長に変わり「一度立ち止まって」という話があり最後に出てきたのが、令和4年度の整備計画案の基本構想の内容と同じことを言っている。ほかの委員も言われたようにまた一からの議論へ戻ってしまうのではないか。その辺が一番懸念されると思う。

今の中学校のように町全体の中心的なところに小学校が必要ではないか。

学校の先生方に言わせると小中一貫（連携）できる場所が一番いい。だとすれば中学校しかないということで、私はいいのではないかと思う。

方針をあっちだ、こっちだと変更することで当初の目的が達成されないことでは困るので。準備委員会として当初の方針で進めていただければ幸いかなと思う。

（委員長）

関連してございますか。別の意見でもどうぞ。

（委員）

先月、南小のPTA会長経験者で意見交換し場所がどうこうではなくてという声があった。

ひとつ、変わった意見として2校案も出てきた。現在の中学校の位置であれば歩ける範囲だが、西小学校の場合歩かなくなってしまうとお母さんたちが言っていた。南小を使いながら西小も。歩ける範囲のところでという意見が出てきた。お母さんたちにはだいぶ好評だった。

町長が言うプランをもっと用意しなさいという中で、2校案もあってもいいのではないかという意見。学校を2つにした場合、クラスは1クラスになります。人数は増えると思う。必ず2クラス、複数学級なくてはいけないのか、と当日も結構そんな意見もあった。

どこに重点を置いた子どものためのプランなのかが分からなくなっている。時間だけが過ぎてしまう。

2校を使うのであればお金はかからないと思うし、ソフトの面に重点を置き充実させればいつでも可能なのではないかという意見もあった。この統合準備委員会の中で、本当はこのような話をするのはいけないのかわからないが、一つの案として述べさせていただいた。

（委員長）

中学の併設案にこだわるのではなく、他のも検討し2校案もあるのではないかというご意見。

（委員）

保育園の保護者の方にも聞いてみた。例えば西小学校に統合するとなると、通学をどうするのか。新聞にバスと電車と書いてあったが、はたして小さい子どもが安全に通学できるのか。西小学校に統合というのはどうなのかなと私も一保護者として思った。ハードではなくてソフトにお金をかける話になっていけば、例えば町でスクールバスを出して全エリアから送迎していただく。そういった部分にお金をかけていただく、という意見があった。

(事務局)

今の意見は貴重だと思うが、総合的に統合の位置は西小ならばという前提で話をされたのか。それとも皆さん西小がいいなとなったのか。

(委員)

西小学校という新聞が出た時に、志賀高原からどう通うのかという話題から。西小学校という新聞が出た時の話である。

(委員長)

通学について、西小以外の案を考えていく必要があるということ。中学併設案では、通学等色々協議されてきた。だから西小案になった場合、通学に関してゼロから協議しなくてはならない。これまでそれを協議していない。南と西の2校案もそうだが、またゼロからスタートする。とても今年度中に、という状況ではない。

(教育長)

補足させていただく。そもそもこの小学校統合準備委員会は令和5年の整備計画案を作るために設置され、その前提となる令和4年3月の適正規模適正配置にかかる基本方針の時点ですでに中学校への併設という方針がまとめられ、中学校への併設ということ前提としている。具体的な役割は、中学校に併設するということを想定した上でどういう学校にし、どういう中身で、通学はどうするかを具体的に深めていくことが準備委員会の役割だと教育委員会としては理解している。

今回町長が、中学校併設ではなく小学校のいずれかを教育委員会に委ねることを示した。中学校併設はもうないという前提で既存小学校のいずれかで統合する方針を教育委員会も合意するならば、改めて準備委員会自体を組織し直さないと整理もつかないと感じる。

この1年間、町長自身のビジョンもしっかり示されてきたと思うし、我々としても町長とのやり取りをする中で、コストの計算もしっかりして、客観的な比較資料を作るということの重要性を我々は学んだと思っている。

その中で、教育委員会としてはやはり町民の皆様が願っている統合をなんとか決定したいと思っている。特に今の子どもたち、そして現場の先生方のための学校づくりを目指すのが教育委員会としての役割だと思っている。そこを町長にご理解いただけない、我々の力不足だと反省している。今の前提としては中学校敷地を我々自身に取り下げられないことをご理解いただいた上で、ご意見いただければと思う。

(委員)

方針の転換。例えば教育長は、町長はビジョンも示されたと言ったが、我々には全く示されていないと思う。西部地区の地区懇談会の際に、町長は西小に統合を、と言っていたので、西部で何かビジョンがあるのかと伺ったら、そんなつもりはないと言っていた。

また、人口増加と繰り返し言うので、どのぐらい増やしたいのかと、とある懇談会で聞いたところ、現状維持と言っていた。現状維持ということは今いる町民が満足して、1度は学業等で外へ出てもまた戻ってくる、それが、孫が帰ってきたくなることではないかと思う。

外部から人が来るのは大事かもしれないが、小学校統合の教育問題とは切り離してもらいたい。切り離さないのだったら、ビジョンをもっとお示くださいということをお願いしたい。

5年の12月ぐらいになって、西小学校を拠点に統合を進める強い意思ありとあるが、我々はまったく聞いていない。今までの議論の積み重ねで長い時間をかけて合意形成したものに対して魅力がない、敷地が狭い、予算が多すぎると言われても、議論のしようがない。

西部エリアに自分の思う町づくりのビジョンがあると今日聞いてちょっと待ってください、と思う。

5年後10年後のビジョンを全然示してないのに、急に学校統合と移住者を増やすことを同じ土俵にあげて、はっきり言ってこれでは絶対合意しない。段階を踏んで町民の意見を聞き、(議論を)重ねてきたのにもかかわらずないがしろにしていると思う。町民の今までの議論を全く聞いていないと思う。

よく分からないうちにマスコミで報道が出るのが我々にとっては寝耳に水である。

とにかく、町長が何かやりたいのであれば、ビジョンを示して欲しいし、そういう構想があるのであれば、まずそれを掲げて欲しい。ソフトの充実もこの会議がずっと考えてきて、中学校併設の点でもソフトの面からも考えていること。

町長の考えがこうだから、あとは教育委員で決めてくれというのは今までの町民の議論とは整合性が取れない。

今までの町民の合意形成を無視(あえて無視というが)されるのであれば、町づくりのビジョンを示すところから町民の合意を得ていかないと、小学校統合問題や教育問題だけでなく、合意形成という意味では違うのではないかと思う。

(委員長)

時間の関係もあるため、議題の(2)に先に入り、そのあとに関連して意見があればということを進めたい。

(2) 町長による新たな方針について

(教育長)

先ほど1のところ、町長の方針も説明したので、およそ皆様に伝わっているかと思う。教育委員会としては、当初からなんとなく町長の意思を感じつつも、中学校併設も完全には否定されていなかったもので、中学校併設の魅力を高めようと、必死に町長に納得いただけるような内容にブラッシュアップしようと努力してきた。

7月に実施した地域懇談会でも、仮に西小学校を比較対象とする話もした中で、どうし

て西小の話が急に出てきたのという質問もあった。我々としては中学校併設だけでなく、より客観的に色々なプランを示しながら町長とやり取りをしてきたことを、あの時点（7月）では全部お伝えできなかったこともありちぐはぐな説明になってしまったと思う。

ただこの期に及んでは、資料のとおり町長ご自身の決断としては、中学校併設案はもうないという判断であると少なくともそのように理解している。教育委員会に委ねるとするのは中学校併設案を含めてではなく、既存小学校でどこにするかを教育委員会で決めていいですよという指示を受けている。

我々としてはずっと中学校併設案が、現場の先生や地域の皆さんの合意形成の中でまとまってきたものと十分承知している。町民の皆様がこれまでの経緯を知らないうちに、なぜか教育委員会も中学併設案を言わなくなるということはできないので、非常に我々としては苦慮している点である。

既存小学校のいずれかで決めることもできない、中学校併設を取り下げることもできないという中で、ご意見のように町長のビジョンもしっかりお示しいただきながら、教育委員会の今までの思いや作業もしっかり町民に説明する場を改めて作らせていただければと今率直に願っているところ。

（委員）

（2）についてだけでなく、全体を通しての意見や考えを話したい。

現場の教職員の立場だと小中連携ということが山ノ内町には最適ということがまず現場の考え方として軸にある。

そもそも、なぜ小学校を統合するのか十何年来検討されているのかという原点にかえれ、持続可能な、子どもたちにとって幸せな環境を考えていく上で統合は必要であるということが根底にあると思う。場所をどこにするか云々よりも、統合の意味は子どもたちの幸せな学校生活を保障するためだと思う。

色々な考えがあるのはもちろん。だからこそ我々としては軸になるものはぶれたくない。そのためには小中学校の併設がいいと、教育委員会の皆さんとこれまで積み上げてきたというのはそういう意味がある。

町民の方々のご意見や町長のお考えもあるだろうし、色々な議論があることはもちろん承知しているが、今回、今まで合意形成されてきたものと違う案（町長の試案とする既存小学校を活用した統合）を検討しなきゃいけない現状を考えた時に今までの合意形成はどうなるのか。他の委員さんも言っていたが3月までに結論が出るのかは非常に心配なところ。

（町長私案の）ソフト面の充実に関して、学校現場は（教員の増員は）ありがたいが今出されている資料はあくまでもサンプルでしかない。教職員の現場も全く知らずにパッと出てきて、報道で知ったレベルで、検討もまだ何もできてない中で結論を出すのは非常に難しいと思う。

（試案のソフトと示された）一つひとつの事業をどうするという議論と、統合することがどのような関係性にあるか検討してきていないので分からない、というのが正直なところ。従って教育委員会から出されているように説明機会や町民の声をもう1度聞くというプロセスが必要

かなと私個人としても思っている。

(委員長)

小中連携の魅力を大事にした意義など話をしていただいた。

(委員)

教育長から説明のあった新たな方針とした配布資料4の最後のページを見ると、統合小学校の開校場所については東小、西小、南小、のいずれかとし、教育委員会と協議の上3月末までに総合教育会議及び教育委員会で決定したいと書いてある。先ほどの教育長の説明だとあくまでもこの準備委員会では、中学校敷地を軸に考えているとのことだが、この資料との整合性は如何。

(教育長)

私が説明しているので分かりにくいと思うが、この資料は議会でも私案とした上で説明されたがあくまでも町長の資料であり案と理解してほしい。私が作成したものだが、あくまでも町長の方針を元に説明資料作成をとの指示で作成したものである。委員からご指摘があったように、ソフト事業については既に形になっているものを除いて多くのものは全て案であり、教育委員会の内部で協議したわけではないし、町の財政部局の中で協議をしたわけでもない。あくまでも町長ご自身のアイデアを資料としているということであり、町長の考えとご理解いただければと思う。

(委員)

町長の試案について、7月の準備委員会資料としてあった(整備計画案)中の基本構想に同じことがすでに書いてある。4つのおもいを1つにつなぎ地域と共にある学校や、ふるさとから世界にはばたく1人1人が未来の作り手、という基本構想を持って検討を続けてきたが、また元へ戻し、話が行ったり来たりになっているので、教育長の発言のようにあくまでも今まで検討を進めてきた中学校併設が軸だという方向で3月末になっても進めていただければと思う。

(委員長)

今までの方向を堅持してほしいという意見であった。

(委員)

私個人的な考えでは、本日、町長も同席して自分の言葉で町長のプランを述べて、方針を聞けるものかと思って私はそれを望んでいた。

それとは別に、平澤町長の3月の最終的な考えとして書いてあるとおり、ハードからソフトへの方針転換により中学校併設プランはやめて、建設費を軽減できる既存小学校の活用プランで統合を進め、3小学校のうち統合場所の決定は教育委員会に委ねる、としている。どうい

ことかという、(教育委員会へ) 丸投げである。3小学校のいずれかに教育委員会に決めてくださいとして、考えを示したら示したでそれは教育委員会の中で決まったことだから仕方ないでしょという風に私は受け止められる。今まで進めてきた教育委員会の方針について、今日聞いていても統合準備委員会並びに教育委員会として中学校併設プランは取り下げないというのはこの会の強い意思だと思って聞いていた。

やはり(町長と教育委員会)全く違う両者の考えなので、後出しじゃんけんのようなことをされていたらいつになっても決まらない。やはり、今まで回を重ねてきた準備委員会(の議論)を無駄にできない。そして一番は学校関係者の方々の意見を聞いても、小中連携の統合が望ましいと思う。敷地の中でできる範囲でやればよいということを基本として準備委員会ではあくまでも中学併設プランは取り下げないでいくという強い意思表示をすることで前進していくのではないかと。やはり今までの方針を発信していくべき。

(委員)

実は去年の統合準備委員会は、苦しくも楽しかった。新しい学校のプラン、こんな学校にしたい、こんな学校になるといいなということもだんだん具体的にになっていくという過程を丁寧にやってきた。苦しくてもやっぱり楽しかった。

当初は西小学校の新入生の人数が一桁になることを目処に統合しましょうというのがスタートだったと私は記憶しているが、学校現場とすると人数の維持、例えば2学級だとクラス替えができるとか、それと合わせて中学校併設とすることでより夢が広がる、そういうことが教育の魅力だと私たちが共通理解していたと思うし、やはりそこはぶれてはいけないと思う。

ちょっと乱暴な言い方になるかもしれないが、今回最後の最後にお金(予算)のことを唐突に発表されて、お金がかかるよりかからない方がいいに決まっているのだから、すごく心を乱されてしまう。もっと今までの経過を踏まえた上で私たち委員会も提案していくべきだと思う。

(副委員長)

先ほど他の委員からも話があったように3月末で話が決まるというのは不安だが、私は保護者という立場で話すと、3月で決まらないとか、来年いっぱい決まらないというのであれば、子どもたちを優先して3校を1つにまとめるのはいかがかなと思う。

今日も山ノ内中学校女子のクロスカントリー部の3名が、北海道でジュニアオリンピックに出場している。中学校で素晴らしい先輩がいる中で、もしかしたら来年の春には小学1年生で山ノ内を代表するオリンピック選手が誕生するかもしれないというきっかけが失われているのかなと思う。3つの小学校1校1校だと人数が少なく、スキー部に入る人も少ないが、それがもしかしたら3校合同になれば、友達が入るなら私もスキー部に入ろうかな、となるかもしれない。今、中学校の子が北海道で頑張っている姿というのは、小学校の時からやっていないと中学で発揮できるものでもない。

町長と教育委員会の議論が長引くのであれば、町の将来性を考えると、少しでも早く子どもたちを合同にしてあげる方がいいと思う。

自分の子どもに話を聞いても、現状、3校で会うきっかけもない。中学校になって一緒になるにも関わらず、小学6年生になっても（他の小学生と）年に2回会うか会えないかぐらい。小学6年生よりも前に年4、5回合同で集まれるきっかけがあればいいかなと思う。

（教育長）

今の副委員長の話を補足する。配布資料3の裏面にプランAからプランEのそれぞれのコストと建設整備期間も併記している。中学併設案はプランA、例えば西小単独で改修して、できるだけコストをかけないというのはプランD。建設整備期間は4年と3.5年との記載がある。これまでもとにかく1日でも早く、できるだけ早く今の子どもたちのために統合するという思いでやってきている。小学校だけの統合と、中学併設とではかかる時間に大きな差はない。それを加味した上で、我々も色々なプランを考えてきたが、是非客観的に皆様もイメージしていただくとありがたいと思う。

（委員長）

資料3について建設整備期間も示されているということで、資料として頭に置いていただければと思う。

（委員）

前回の準備委員会で話したが、中学校併設で準備を進めてきているのでそれが一番いいと思うが、町長はお金（予算）がかかると言っていて、中学校併設案では30億円と話をされたが、既存の学校施設を改修することによって1億や2億でも多分建設することは可能だと思う。町で出せる上限を示してもらい、その範囲で作ればいいと思う。とりあえず統合することが大事だと思う。

その中で西小学校も別に悪くはないが、子どもを電車で通せるのは危ないと思う。夜間瀬駅は無人駅で、そこに子どもがいるってこと自体が私は心配なので西だったらスクールバス以外ないと思う。

（委員）

私は正直これといった意見がまだ自分の中で決まっておらず、いろんな方の意見を聞くと、ああそうだなと思うのが現状。一番は子どものことを考えた小学校になって欲しいと思うので、子どもたちにとって負担のない計画がよいと思っている。そのためにどうしたらいいのか、現在は、賛成も反対もわからない状態です

（委員長）

子どもたちのために負担がない統合を、ということでした。

（委員）

様々なご意見を伺いながら結論的に言うと併設案を堅持していただきたい。そもそもこの準備委員会はそのビジョンの元に成り立っていると思う。一刻も早くということももちろんその通り。もう1度改めて統合場所をどこにすると議論を始めると、どんどん遅くなっていく、総論から各論にどんどん広がり、そうすると私の経験上、3.5年から5年はかかると思う。これ以上、やはり延ばせないと思う。

新しい学校の開校のみに目がいきがちだが、今はない北小、そして西小、南小、東小それぞれ歴史を持ってやってきている。地域の方の思いを受けて、閉じる（閉校）にも時間がかかるということをお忘れしたくないと思う。もちろん今の子どもたちは大事だが、そこを閉じるということも区切りをつけるという意味では大事だと思う。

また、(町長の案は)人口増加、県外からの教育移住とあるが、私は移住者＝定住者ではないと思う。他の委員が言われたように今の子どもたちが楽しい街だと感じなければ帰ってこない。今の子どもたちが、早めに安心して過ごせて、そしてうちの町はいい町だと言って、全国に散ってもいい町だから戻りたいというような町づくりをしていかないといけない。新しい人を呼ぶことは間違いなく大事だと思うが、移住＝定住ではないと思っている。

もう1点、財政の面で今色々話題になっているが、私は素人なのでよく分かりませんがそんなに山ノ内町の財政はひっ迫しているのか。借金は残るが、地方交付税が予算に占める割合を皆さんご存知でしょうか。そう考えると長野県全体から見てもそんなにもガタガタしている町なのかということについて、私は少し違う見方を持っている。議会だよりもあった。小林克彦議員だったかと思う。お金（予算）の話になれば確かに借金を残しちゃいけないという気持ちはあるが、そんなに山ノ内町って弱体化して、脆弱なのだろうかと思う。

私は基本的な考えとして、さらに時間をかけて延ばすことに委員としてはあまり賛成できない。やはり併設案を堅持していく。

最後にこれだけは伝えさせてもらおうと、冒頭に原委員長から話があったと思うが、私は小中併設の学校にいたことがある。掃除をしなかった小学生が、中学生の一生懸命な姿を見ると、僕たちもやらなきゃいけない、となったこともあった。また、野球部の人数が足りず、週末、中学生の野球する姿を見て、小学生が僕も野球やってみたくてチームもできた。そのようにスキーだってありえるのではないか。小中9年間共に過ごす中で、廊下が繋がっていて、小学生が中学に行くこともある。その時にどうしたのって言えること、中学生が来るとなんとなく緊張して先輩が来たという気持ちになること、近くにいてありがたいと思う。中学校の先生が教えに来ることもできる。美術専門の先生が来てやってくれたことがある。そうすると絵を描くのがまたちょっと変わる。私はそんな経験があったので述べた。

(委員)

私も1日も早く統合は実現してほしいという思い。そして子どもたちのことを考えれば小中一貫でというところはキーワードとして外せないと思う。

先ほど副委員長も他の委員からもあったが、私はあるスポーツの指導員をしており、将来の山ノ内町を担う子どもたちをリーダーとして育てていきたいという思いで、日々子どもと向き

合っている。なかなかうまく実現しないこともあるが、将来子どもたちがこの町で育って、この町にいて、より良い町にしていってもらえるようにするためにも小学生が中学校のお兄さん、お姉さんたちと一緒に過ごすことはいい影響が多くあるのではないかと思う。

(委員)

私も準備委員会に出席していて、中学校の敷地に併設するものだと思っていたが、新聞で西小に変わるということを見て、保護者の間でも北部からしたら今と変わらないので生活はあまり変わらないという話は聞いた。本者としてはそこまで場所はこだわっていない。ただ統合するなら早い方がいい。子どもが大きくなるのでどんどん小学校から抜けていく。6年間しか小学校にはいないので、場所の議論だけでこれだけ長く続いていると、自分は今関わっているから興味はあるかもしれないが、これで子どもが卒業したらもう興味がなくなってしまうことになってしまうので、もう少し話を詰めていただいて小学校の統合が実現すればいいかと思う。

平澤町長の小学校に対しての思いがとってもハードルが高いなど保護者は思っていて、私は保育園の保護者会長だが、小学校にも子どもがいて、りんごやお米を作ったり、川遊びをしたり、それだけで子どもたちは毎日楽しいと言っている。小学校ってそのくらいでもいいのではないかというのが親の気持ち。

(委員)

不安なのが、途中から西小の話が出て、今こうして西小を理想的にするという話が出ている。町長に他の案を出しても、また判子を押さないと言うかもしれないが、皆さん(住民)はどう思うか。山ノ内のことをよく知らない町長なので、町のこと、皆さんの意見を もっとよく聞いてやってほしいと思う。

(委員長)

全員の委員の意見を聞いた。この委員会の委員として保護者であり、住民の代表であり、学校教育のプロである。そういう皆さんが集まっている委員会である。いわゆる民意である。このような委員構成ですべて会議をしてきて、それで中学併設案になったわけである。

委員会の中では、現在の整備計画案を堅持する方向で進めていくが、教育委員の方で何か付け足しや、これまでの意見について発言はあるか。

(教育委員)

先ほど教育長がこの1年間の経緯を丁寧に説明されたが、その中で特に印象に残っていることをまず先に喋らせてもらおう。我々は令和5年の夏の段階で町長の壮大な町づくりプランを見せられた。これはまだ多くの方は現時点で知らない。(そのプランは)そんなにうまくいくわけがないというのが正直な感想。

色々な経緯があったが、我々としては今までの議論の積み重ねを無視できる立場ではないし、合意形成を図ってきた立場である。それを簡単に捨てることはもちろんできない。我々の立場

は、地域からそれぞれ代表して選任されている。私も地域から選任されて議会で認めてもらって教育委員をやらせていただいている。統合準備委員会の皆様はそれぞれの立場で、民意として、町民の代表として議論をしているわけである。

令和5年12月頃に教育委員会が出したプラン（中学校併設とした新築プラン）は町長に0点と評価された。そしてその非公開の場で、統合準備委員会についても町のほうで新しい組織を作って、そちらで進めてもいいと発言があったと思う。これはもう町民軽視以外の何ものでもない。自分のひらめき案を実行するために今までの議論は無視していいと、そういうことを言っている。トップとしてどうなのかという思いがある。

同じく12月議会最終日の全協（議会全員協議会）というものがあり、そこで我々は、（このままではまちが明かかないとおもい）我々の思いを公表して欲しいと教育長に強く望み、資料もできていた。始まる30分前まで細かい調整があったが、もしその資料を出すのであれば、統合は白紙にすると言われたという経緯もある。

今回の資料、統合小学校プラン概要表をもう1回見ていただきたいが、最初我々が（町長プランとして）聞いていたのはプランBだった。このものすごく立派なプランだったら80億でも90億でも出してもいいという話を夏までは（町長から）聞いていた。中学校併設という今までの経緯もあるので、町長のプランを押し進めるのであれば、町長の責任で大きく方向転換するために、つまり私たちにを見せてもらった町長の町づくりプランを公表することが条件だと総合教育会議でお願いしたが、その時の段階ではできないと言われ、今の時点でもまだされていない。

（町長から）中学校は狭いと再三言われてやってきたが、児童1人あたりの床面積が、プランAだと25平米。プランBも25平米で1人あたり面積25平米は絶対に譲れないと言っていた。（令和6年3月）ここに来て予算をかけない方向に転換をしているが、1番予算がかからないのがプランD。西小のプランCでも実質的コストだと中学併設案よりも高くなってしまったので、この中だとプランDだが、1人あたり面積は16.3平米になる。（町長が）散々我々にダメだと言って、我々が教育の魅力について、教育の中身について話をすると狭いからダメだとハードにすり替えられた。例えば山ノ内町の玄関、湯田中駅でESD教育をやっている。中学校併設としたら小学校が駅に近く、歩いていけるという話もしたが、これだけインターネットが発達しているから近い必要はないと言われた。その時点で町長は教育の本質を分かってないと思った。そういう繰り返しだった。

今になってソフトに転換すると言って、教育長に作ってもらい色々綺麗な表現で書いてある。ICTやSteam教育とか聞こえがいいが、Steam教育の中身やまた、Steam教育をやったらいくらかかるのか。教科を横断してやる教育だが、長野県の教員でSteam教育を会得している教員はどの程度いるのか。それを山ノ内町で全部配置してもらえるのか。そういう技術的な面も踏まえてソフトだけで尖りを出すことも非常に厳しい。

3月議会の一般質問の答弁で小中一貫、義務教育校にするのであればと言っていたが、そうになると教員の採用や配置が非常に大変になる。だから現時点では我々の案は小中連携と言っている。何度説明しても分かってくれない。

議会の一般質問で小林克彦議員が言ってくれたが、いずれにしてもお金(予算)はかかるが、(校舎は)償却資産として残る。今後80年間使える。

ハードからソフトに転換するとあるが、ソフト=人は1番お金がかかる。町長のソフト案を全部やるとすると年間2億5000万くらいかかる。単純計算で10年で25億。

移住者を増やすことができる魅力を出せと言うが、要は町長が気に入るプランを教育委員会で決めてくださいと言われていた。つまり西小への統合案を教育委員会が決めてこいと言われていたが、我々としてはこれまでの議論の経緯、プロセスがあるから、急に言われても無理。我々はもちろん小中連携、中学併設案を強く推したいと思っている。

(教育委員)

教育委員から説明があった話だが、町の決まりで新設の場合80年耐用するというものがある。この46億が80年使える。西小学校を長寿命化工事及び増築した場合に16億円かかるのだが、20年後にまた小規模改修しないといけない。そして40年後には建て替えということは町の規定で決まっている。これを計算した時にどうなるのか。

もう1つ私の意見として、西小学校を大規模改築して、既存小学校で統合させるとなった場合に工事期間の1年半と開校準備の半年、この間に西小学校の子どもたちはどこに通うのか。そこまで考えてないと思う。

教育委員という立場だが、私も保護者である。教育委員に昨年12月21日から着任して、会議を重ね、中学校併設案を見させてもらった。保護者の立場ですごく魅力がある。自分の子どもを通わせたいと思った。是非このまま進めたい。今現在、私の小学生の子がこの統合小学校に通ってほしい。現時点で通ってもらいたいぐらいの気持ち。中身が濃い。教育長もよく考えている。委員の皆さんも検討してきている。これだけ練られた案をここでひっくり返すということは、現在見通しとしておおむね出されている建設期間のおおりにくいのではないのか。どこの既存小学校に持っていくか、その議論でまた1年、皆さんに説明して回り、地域の声を聞かなければ私たち教育委員だけでは決定できない。だから教育委員会としてはぶれないでいこうという話である。

どこに魅力を感じないのか。先ほどの皆さんの話の中で出た2校案も以前検討したらしいが、ゆくゆくは1校にしなくてはならないなら、このタイミングでしなきゃいけない。既存の小学校を使うなら、すぐできるだろうという意見もあるが、大規模改修工事が目の前に迫っている。だから既存小学校を使って早くなるわけでもない。大規模改修をすると、やはり子どもたちに負担がかかる。親の目として、保護者の皆さんもそうだと思うが、子どもに負担をかけたくない。子どもには夢を見させたい。するとどうしても私は中学校併設案しかないと思う。

(教育委員)

委員の方たちのご意見のとおり、中学校併設案ではなく既存の校舎を、という話になった途端に意見がバラバラである。これを避けるために色々検討し中学校併設がいいと進めてきた。もし中学併設ではないとなれば、振り出しに戻るということ。

皆さんの意見を要約して、小学校入学する子どもたちのために考えてきて、決して個人の思いだけでないことははっきり申し上げる。

経緯のとおり、1年弱町長とやり取りがあったが、ご存知のとおり平行線である。どっちかが折れる折れないではないが、私も妥協案として町長に話したり、教育委員会の中でも西小案を検討した。しかし、町長は令和6年2月7日の会議の後、小中施設一体型の木造平屋建設の予算が96億かかることを知ると一変、西小の建設はなかった話にしてくれと教育長を通じて聞かされた。開いた口が塞がらなかった。あれだけ魅力ある学校という課題を突きつけておきながら、町長の心変わりの発言に振り回された1年だったという感想。

確かに物価高騰と能登半島の地震もあり、予算は大変かもしれないが、小林克彦議員の答弁にもあったとおり予算はなんとかできるのではないかと。最終的に小学校の決定は教育委員会に委ねると言われたので私の考える妥協案（中学校併設以外の案）も吹っ飛んだ。私は、統合小学校は中学併設を要望する。傍聴の方もこの経緯を聞かれてどう思われたか。本当に振り回されてきたと、また、教育委員も何もしなかったわけではないと感じていただけたのではないかなと思う。

敷地が狭すぎるとか、プールがなくなるから建設反対なのではなく、町長は中学校の横に建設すること自体が嫌なのだとはいきり分かった。前回（令和5年9月27日開催）の総合教育会議で理由付けをせず、町長ご自身のまちづくり構想を話していただきたかった。ただ、現在に至っては統合にあたり、決意がより確立できたことは良かったと思う。

（教育委員）

私の考え自体は他の3人の教育委員と全く同じで全然ぶれることはない。準備委員のご意見も全面的に支持したいと思う。

私は山ノ内町中学校の第1回目の卒業生で、今年75歳になるが、最初に統合した時は1500人である敷地にみんな押し込められた。休み時間になると廊下や教室、グラウンドが生徒でひしめき合っていた。Aプランの数字を拝借して計算してみると、当時の私たち1500人で割ると、1人当たりグラウンドは7平米。こんな狭いところでやっていた。

町長は（中学校併設案は）狭いと言うが、この前の統合準備委員会であった、フィールドは十分広いのになぜ校舎ばかりこだわるのだと。広いフィールドをもっと活用する案を町民の方に出してもらい、みんなで練り上げて、そのような学校にしたら町民の希望に沿う校舎になるのではないかと思っている。そういう意味で皆さん団結してやっつけよう。

（委員長）

参加の委員皆さんの意見をお聞きした。委員の意見が出尽くしたということで、統合準備委員会のまとめをしたい。

各論はいろいろあるが、これまで苦勞して前任の委員と作り上げてきた整備計画案を堅持して参りたい。反対意見があればお願いします。

<意義なし>

それでは、統合準備委員の意見を大事にさせていただいて次に進めていただければと思う。
教育委員会への要望等あればお願いします。

<なし>

以上で会議事項を終わる。

5 その他

(教育次長)

次回の日程について。年度末でご参加の皆さんは役職が変わってしまう時期になり、4月以降 委員が変わる可能性もある。あらためて事務局で次回の日程をご案内させていただく。

3月27日(水)に、町長と教育委員4名が直接懇談する総合教育会議を予定している。場所はこの文化センターの3階ホール、18時を予定。公開であるので、大勢の皆さんの傍聴をお願いしたい。

その翌日、臨時教育委員会の会議で最終的な方向付けを示していきたい。

6 閉会